

庄内中高一貫校(仮称)に係る保護者等説明会 記録(要旨)

1 概要

会場	期 日	場 所	参加者	
鶴岡市会場	令和3年11月11日(木)	鶴岡市中央公民館	164名	合計
酒田市会場	令和3年11月18日(木)	酒田市総合文化センター	91名	255名

2 出席者

- ・保護者、地域の方々
- ・県教委 遠田教育次長
舟山高校改革推進室長、奥山高校改革推進室室長補佐、外 高校改革主査3名

3 内 容 高校改革推進室長から説明後、質疑応答

4 質疑応答

(1) 申込みの際の主な質問(鶴岡市会場、酒田市会場共通)

(質問)

スクールバスは運行するか。

(県教委)

東桜学館中学校・高校と同様に、庄内中高一貫校(仮称)の通学区域は、県下一円になる。生徒の居住地が広範囲となるため、スクールバスの運行は現実的ではない。遠くから通う場合は、保護者等の送迎や公共交通機関の利用をお願いする。

公共交通機関に対しては、通学時間等の情報を共有し、運行時間等に配慮されるよう働きかけていく。

(質問)

これまでの適性検査の内容は、知ることができるか。

(県教委)

東桜学館中学校が開校する前、平成27年1月に試行した適性検査及び作文については、県高校教育課のホームページに公開している。また、外国語については今年度から実施になるため、サンプル問題を、同じく県高校教育課のホームページに公開している。

東桜学館中学校の適性検査及び作文の過去の問題については、高校教育課の入試担当が対応する。県のホームページを確認の上、高校教育課に問合せいただきたい。

(質問)

移行期に当たる令和4年度、5年度の鶴岡南高校・鶴岡北高校のカリキュラムや開校後の学習支援をどう考えているか。

(県教委)

令和4年度、5年度の鶴岡南高校・鶴岡北高校の入学者は、庄内中高一貫校(仮称)の基本理念を踏まえて編成する教育課程に基づいて、それぞれの高校で学習することになる。共通する教科については、原則、教科書、評価方法などをそろえ、開校後にスムーズに学校生活を送れるように配慮する。

開校後のカリキュラム等は、現在、作成に取り掛かっているところである。教科によっては習熟度別学習を取り入れるなど、個人の学力差についても配慮することを検討している。

(質問)

障がいなどで配慮が必要な場合は、どうすればいいか。

(県教委)

庄内中高一貫校（仮称）には、特別支援学級を設置しない。

現在、校舎の設計で、中学校、高校どちらにもエレベーターを設置するなどのバリアフリー化を進めている。また、施設面以外においても、配慮が必要な点は個人によって状況が異なるため、障がいなどで配慮が必要な児童生徒の受検については、出願前に相談する機会を設け、学校生活に適應できるかを考えた上で出願していただくことになる。受検した場合、他の受検者と同じ条件で選抜する。心配な点があれば、遠慮せずに相談いただきたい。

(質問)

移行期に当たる令和4年度、5年度の鶴岡南高校・鶴岡北高校の部活動は、どのような場合に合同チームになるか。

(県教委)

運動部活動については、高体連の規約等によって判断することになり、鶴岡南高校、鶴岡北高校のどちらか一方が人数不足により単独で大会に出場できない場合に、合同チームを検討することになる。ただし、一方の高校が人数不足であっても、もう一方の高校でチームが編制できるようであれば、単独の学校として出場することもあり得るため、一方の学校が人数不足だからといって、合同チームを確約できるものではない。

また、合同チームとする・しないに関わらず、両校による日常的な練習、交流活動等の在り方は、今後検討することになる。このことについては、文化部活動も同様である。

なお、鶴岡南高校・鶴岡北高校に設置している部活動は、開校後も継続して募集する予定であるが、移行期に当たる令和4年度、5年度に、例えば、鶴岡南高校にしかない野球部に、鶴岡北高校の生徒が加入することはできないため、注意いただきたい。

(質問)

中学校の部活動は、いつ決まるか。高校と一緒に活動するか。

(県教委)

中学校に設置する部活動は、検討中である。現在設計を進めている校舎の機能、広さ、外部施設の空き状況等を参考に、開校整備委員会で決定する。決定したら、ホームページ等で周知するので確認いただきたい。

また、高校と一緒に活動するかどうかについては、中学校の全学年がそろそろ令和8年度までの活動状況や、使用する施設・道具などによって、部活動毎に判断する必要がある。現段階で具体的なことは決まっていないが、中学校・高校の交流は、部活動を含め、積極的に推進していきたいと考えている。

(質問)

校名等は、いつ決まるか。また、どのように決めるか。

(県教委)

校名については、開校整備委員会において、今年度中に決定までのスケジュール等を定める予定である。これに従い、手続きを進める。また、校章・校歌についても同様に、開校整備委員会において、スケジュール等を定めることになる。

(質問)

市町村が中学生のいる家庭向けに実施している補助は、県立中学校でも受けられるか。

(県教委)

市町村が実施している補助については、こちらで判断することができないため、市町村教育委員会や、関係課に問い合わせさせていただきたい。入学や在籍の証明が必要な場合は、学校に申し出ていただきたい。

(2) 鶴岡市会場での質問

(質問)

開校時、併設型高校普通科2年の学級編制は、鶴岡南高校・鶴岡北高校の出身生徒が混合となるが、学力差についてはどう考えているか。

(県教委)

生徒の実態に応じて習熟度別学習等を取り入れることを検討している。また、開校前においても、両高校で同じ教科書を使用したり、評価方法をそろえたりすることで、開校後にスムーズに学習に取り組めるように配慮したい。

(質問①)

先進校の視察先である千代田区立麴町中学校では、制服はなく、私服としている。庄内中高一貫校(仮称)では、制服ありきで検討を進めたのか。

(県教委)

制服・運動着については、「そもそも必要なのか」というところから検討を開始した。検討を進めていく中で、生徒や保護者等へのアンケートを実施し、その結果等から、必要であるとの結論に至った。制服については、日常的にどのように着用していくのか、今後、生徒を交えながら検討していくこととしている。

(質問②)

制服ではなくなる場合もあるということか。

(県教委)

制服を採用すること自体は決まっているが、毎日着るのかといった着こなしについては、今後検討していくことになる。

(質問)

庄内中高一貫校(仮称)の普通科・理数科は、現在の鶴岡南高校と同様に、2年から分かれるのか、それとも、入学時から分かれるのか。私の子供は、鶴岡南高校で先生にフォローしてもらい、話し合いをしながら、理数科に進むかどうかを決めることができた。個人的には、2年から理数科・普通科に分かれるという現在の方法がいいと感じている。

(県教委)

現在の鶴岡南高校では、いわゆる「くくり募集」として200名を募集し、2年で普通科・理数科に分かれている。庄内中高一貫校(仮称)において、くくり募集とするかどうかについては、来年3月までに公表できるように検討を進めている。

(質問)

庄内中高一貫校(仮称)は県内2例目の中高一貫校になるが、中高一貫校に勤めた経験のある教員は配置されるか。

(県教委)

教員の配置については、この場でははっきりと言えないところであるが、先進校視察等を通じて中高一貫教育について理解を深めるなど、教員の研修を実施していきたい。

(質問)

募集の詳細はいつ頃どのように公表されるか。また、県外で実施されている入学者選抜の区分、例えば一人親などの家庭に対する募集区分を考えているか。

(県教委)

入学者選抜については、来年3月までに方針等を発表できるように検討している。決まり次第、教育事務所、市町村教育委員会を通じて、各小中学校にお知らせする予定である。本日この場では、募集の方針等の詳細をお伝え出来ないことを御理解いただきたい。

(質問)

中学校の給食費は、他の公立中学校と同額程度となるか。

(県教委)

給食費については、今後、他の公立中学校を参考にしながら調整していくことになる。

(質問①)

令和5年度の入学者は、開校時、普通科は両校の混合学級になる。受検をどのように扱うか。

(県教委)

令和5年度の入学者は、開校後には一緒になるが、受検は鶴岡南高校・鶴岡北高校それぞれで実施する。

(質問②)

鶴岡南高校・鶴岡北高校それぞれに入学するための受検になるということか。

(県教委)

そのとおりである。

(質問)

開校時、併設型中学校には2年、3年がない。この点について、具体的な対応を考えているか。

(県教委)

併設型高校との交流はもちろんであるが、探究的な活動等を進める上で、様々な人と交流を図っていくことを検討していきたい。

(質問)

先端生命科学研究所とは、鶴岡中央高校では研究助手、他の高校では特別研究生として連携している。庄内中高一貫校（仮称）では、中学生段階から連携を図ることが特色の一つとして考えられると思うが、現時点で検討していることはあるか。

(県教委)

先端生命科学研究所や大学、その他鶴岡の様々な教育資源を生かせるように検討しているところである。

(意見)

今後、より具体的な検討をお願いしたい。

(3) 酒田市会場での質問

(質問)

併設型中学校の生徒が併設型高校に進学の際、どのように普通科・理数科に分かれるか。

(県教委)

併設型中学校、併設型高校の入学者選抜の詳細については、現在検討を進めており、来年3月までに公表する予定である。併設型中学校を卒業した生徒の普通科・理数科の分かれ方についても、その際に公表できるようにしたいと考えている。

(質問)

理数科について、鶴岡南高校では1学級40名であるが、併設型高校では2学級80名にしたのは、どのような理由からか。

(県教委)

現在の鶴岡南高校の定員200名に対し、併設型高校の定員は280名になり、学校の規模が大きくなること、令和9年度からは併設型中学校から99名が進学することになるが、一般に中高一貫校の併設型中学校の生徒の半数以上が理系を希望する傾向があること、高校受検を経て入学してくる生徒が理数科を選択できるようにすることなどから、2学級80名とした方がニーズに合うと判断した。

以上